

弔 辞

麗澤大学学長

徳 永 澄 憲

佐藤仁志先生、麗澤大学を代表いたし、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

先生の突然のご逝去の報に接し、ただただ驚き、そして深い悲しみに沈んでおります。大切な大黒柱を亡くされた奥様、ご両親様、ご親戚の方々には心からお悔やみを申し上げます。先週の月曜日に、佐藤仁志先生が亡くなられたと連絡を受けたとき、あまりの突然の出来事に、茫然自失となり、言葉を失ってしまいました。この知らせを聞く前の週に、昨年夏の心臓動脈の手術を乗り越えられ、授業に行かれる先生のお姿を校舎かえでで見ただけでした。徐々に教育現場に復帰頂き、4月から新専攻の長としてご活躍頂けるものと思っております。それがこの度の突然の訃報、まさに哀惜の極みでございます。

先生は、平成7年に筑波大学社会学類を卒業された後、筑波大学大学院博士課程社会学研究科に進まれ、平成15年3月に博士号を取得されました。同年4月に本学国際経済学部に着任され、准教授を経て、平成26年に教授になりました。先生には専門科目の都市経済学や地域経済学を熱意と愛情を持って体系的に教えて頂くとともに、専門ゼミや基礎ゼミで熱心に学生指導をして頂きました。特に、専門ゼミでは「自分で問題を発見して、自分で考え抜くこと」をモットーに、常に厳しさと温かさの両面を持って学生を指導され、学生達から慕われ、経済学部では人気のゼミでした。指導されてこられた学生たちは、今や立派な社会人として活躍し、証券銀行やメーカーなど多くの企業などで高い評価を受けていると聞いております。

他方、大学運営でも、学長補佐や経済学部の教務主任等の要職を務められました。特に、前回の大学認証評価では、いろいろな困難の中、学長補佐として「常に良いものを」という先生のポリシーのもと献身的にご尽力頂き良い評価を得ることができました。今ここで改めて心から感謝を申し上げます。

先生のご貢献は学内だけにとどまりません。柏市の中心市街地再開発プロジェクトやUDC2戦略会議に参画され、ご専門に基づく高い見地から数々の政策提言をなされ、これらの活動に対して柏市から高い評価を頂いたと聞いております。

先生のような優秀な方を失ったことは、地域社会はもとより、私たち大学教職員、学生にとりましても、大きな痛手であり、痛恨の極みでございます。

佐藤仁志先生、どうか安らかにお眠りください。先生が志半ばで果たしえなかった仕事は私たちが力を合わせて引継ぎます。先生の教えは、先生の教えを受けた多くの若者達の心の中に永遠に生き続けることでしょう。

ここに深く先生のご逝去をいたみ、生前のご功績をたたえ、謹んでご冥福をお祈り申し上げ、弔辞といたします。

(令和2年2月3日、佐藤仁志先生のご葬儀にて)

佐藤仁志先生への追悼の辞

麗澤大学経済学部長

上村 昌司

1月27日の朝、佐藤仁志先生から「大変申し訳ありませんがインフルエンザに罹患しました。今日の打ち合わせは欠席します。」という内容のメールを受け取りました。インフルエンザで大変なのに先生らしい律儀なメールだなどと思いつつ、何か違和感を感じるメールでもありました。まさか、その数時間後に急逝の知らせを受けるとは思いもよりませんでした。

一昨年に私が経済学部長就任の打診を受けたとき、真っ先に思ったのは、佐藤仁志先生の協力なくしては学部の運営ができない、ということでした。すでに引き続き学長補佐を務めることが決まっていた先生に、教務主任への就任を打診したところ「私がやるしかありませんよ」と笑顔で快く引き受けてくださいました。それからは折に触れて学部運営や大学のことについて話し合いました。新専攻のこと、カリキュラムのこと、執行部体制のこと、経済学部の将来像など。とくに若い先生たちに過度の仕事が集中することを先生はとても心配されていました。ご自身がもっとも仕事の負担が重い先生だったにも関わらずです。先生は決して自分の利益を優先することなく、学部や大学全体のことを優先した考えを常に述べてくださりました。来年度の教務主任を引き続きお願いしたときには、「来年度からはミーティングに毎回出るようにします」とおっしゃってください、体調がだいぶ回復してきたのだなどと安心もしました。

昨年夏に佐藤仁志先生が病気をされてしばらく休みをとることになったとき、私がいくつかの授業を代講しました。先生の授業の丁寧さは噂には聞いていましたが、ここまでとは想像していませんでした。先生が出されていた課題やこれまでの授業教材を学生に見せてもらいました。一つ一つの課題には丁寧なコメントがついていました。宿題には学生が躓かないよう丁寧な誘導がついている一方で、よくできる学生のためにレベルの高い問題も出題されていました。ゼミの学生たちは自分たちが何をすべきか先生からしっかり指導を受けており、先生が復帰するまでの1ヶ月くらいなら自分たちで作業できます、と頼もしい言葉を返してくれました。そんな学生たちに先生の急逝を伝えたときの、学生たちの悲しそうな顔を忘れることはできません。

教育熱心で仕事は抜群にできる先生には、自然といろいろな重要な仕事が集まっていたように思います。先生が頼み事を断っているのを見たことがありま

せん。それが先生の寿命を縮めることになったかと思うと、悔やんでも悔やみきれません。

佐藤仁志先生が亡くなってから、いくつかミーティングがありました。ふと先生だったらどう考えるのだろうと思ってしまいます。先生がもうそこにいらっしゃらないという空白感はしばらく消えそうにありません。先生、これまでどうもありがとうございました。先生の遺志を引き継ぎ、経済学部を発展させていきます。どうか安らかにお眠りください。

佐藤仁志教授を偲ぶ

麗澤大学経済学部教授

小野 宏 哉

佐藤仁志教授は力量と人柄の両面で大きな信頼を集めた徳の高い研究者、教育者であり、着任以来、年長の私が副学長を務め終えるまで協同する機会が続いたのは幸いだった。常にやさしさをもって人に接し、私を含め他人の不条理な言動を暖かい人柄で静かに受け止めてこられた。

筑波大学大学院で太田充准教授指導のもと都市経済学を学び、とても良い人がいると徳永澄憲学長に薦められたのは20年ほど前である。佐藤教授は当時先進的現象であったテレワークを課題として博士論文をまとめていたところであった。

麗澤大学には、非常勤講師を経て博士課程修了とともに専任講師として着任された。国際経済学部にて初めて視覚障害のある学生を迎えた年にその担当者を務めて頂いた。現代の経済学は市場の理解に数式やグラフを標準的に使うため、画像ベースの知識伝達に高度な工夫が必要であり、その非常に困難な任務を懸命に遂行された。

当初より数理科学を担当され、後に籠義樹教授と共同で自主テキストの全面改訂、授業方式の変更を行い、今日まで使われる新版テキストを完成された。その月曜日朝一限の数理科学の授業が始まる直前に教室に急ぐ姿を拝見する度に、学生が満足する授業への取り組みに尽力されている様子が窺えた。

私と組んだ大学説明会でのPC実演では、遷移行列を例示する企画を相談しただけで、直ちにトヨタ対日産の自動車業界シェア遷移モデルを作成、準備された。

大学院の担当者としては、学生の論文指導にいかなる場合にも誠意を持ってあたり、統計分析入門を担当するにも、大学院に相応しくかつ初心者には優しく教えるという厳しい要請に対し質の高いプログラムを用意された。

入学者減少期の大変厳しい時期に学部教務主任を務め、その後さらに学長補佐を務め本学のIR立ち上げ期に助言と指導の担当者として活躍された。私が副学長として入試広報戦略で高等学校別の目標進学者数を推計できるよう求めたところ、GISベースの分析や言語解析を用いた分析を導入された。貴重な能力を高いレベルでの大学運営に発揮された。貢献が明白なあまり任期は当初の1年から5年に延び、さらに迫る大学認証評価受診の責任者として期待されてきた。

大学運営においても常に期待以上の成果を出す意気込みで仕事にあたり、その成果を誇ることもなく「こんなものでよいでしょうか」と謙虚に報告する。十分な旨を感謝とともに伝えると、「そういつてもらえると嬉しい」と実直に話される。

佐藤仁志教授のかつての論文を読み返すと、都市経済学の理論と都市問題の現実の関係を厳しく追及する姿勢が明確に見える。大学運営の仕事が多いなか、様々な取り組みを研究としてまとめてこられた。校務とされる地域貢献においても、開発、環境の両面で行政に貢献し、特に中心市街地活性化での貢献が期待されていた。地域連携教育と結びつけるだけでなく、テレワークとして追求した都市問題を現実の課題として検証し、政策提案する機会も近づいていた。

新年早々に柏市中心市街地活性化組織であるUDC2の戦略会議に麗澤大学代表として出席し、委員長である出口敦東大教授（UDC2センター長、日本都市計画学会副会長）およびUDC2理事長である寺嶋哲生柏商工会議所会頭（柏市第5次総合計画審議会会長）の柏市都市開発に臨む挨拶に接して、テレワーク以来、長年温めてきたアイデアの展開を実感したものと想像できる。昨年夏に発症した心臓動脈乖離を乗り越え、これからと思いを新たにされたに違いない。

教育、研究、大学運営、地域貢献の全てにおいて、常に期待以上の良い成果を出すという姿勢を保ち、現実の不条理を克服する困難と苦しみを乗り越えてこられたことを想うと、最期まで苦労を共有できなかったことが誠に残念である。佐藤仁志教授がリーダーとして思う存分に振舞う姿を期待していた。

佐藤仁志教授は研究者として、教育者として優れたものを真摯に求め、妥協せず成果を生み出しつづけられた。享年48で亡くなられた佐藤仁志教授のご冥福を祈る。

佐藤仁志先生を偲ぶ

麗澤大学経済学部教授

籠 義 樹

1月27日の突然の訃報は、あまりにも大きな衝撃でした。仁志先生は2015年から学長補佐の要職を務められ、大学運営に多大な貢献をされて来ました。その役割を引き継ぎ、補うことは、誰にとっても容易ではありません。また、享年48という若さでのご逝去は、仁志先生ご自身も無念であったろうと思いますし、ご家族の悲しみは計り知れないものでしょう。ただ、そうした仕事や余りにも若くして亡くなられたということに加えて、私にとっては大切な友人を失ったという極めて個人的な出来事でもあり、2月2日のお通夜や、2月3日の葬儀は、その喪失感を思い知らされるものでした。

私が仁志先生と出会ったのは、数理科学の非常勤講師として本学に赴任された2000年のことでした。同じ科目を担当していること、専門分野が近いこと、年齢が近いことなどがあって、すぐに私たちは仲良くなりました。職場の同僚と友人としてお付き合いさせていただくことはあまり無いことだと思いますが、仁志先生の優しいお人柄もあって、私たちは職場の同僚というよりは、仕事を超えて助け合う友人でした。

2003年からは本学の専任講師になりました。ちょうどその頃から、大学教育に様々な変革が求められるようになり、入学前教育、数学教育のためのテキストの内製化、リメディアル教育、最近ではPBL (Project Based Learning) 型の教育プログラムの提供など、本学でも新たな取り組みが次々と始まりました。そうした新しい取り組みを実行に移すとき、仁志先生はいつも私と一緒にあって、汗をかいてくださいました。仁志先生と一緒になければ、こうしたことはできなかったと思います。しかし、いつしか私は仁志先生に頼るようになり、それが過大な負担となっていたのではないかと思うと、悔やまれてなりません。

仁志先生はNPOの活動にも多大な尽力をされてきました。特定非営利法人かしわ環境ステーション (KKS) では公報担当の理事を長きにわたって務められ、KKSの情報発信能力の強化に貢献されて来ました。NPOですから、公報に割ける予算は限られています。しかし、その中で仁志先生はコツコツとWebサイトの整備をし、KKSの活動報告やイベントの告知ができるだけ簡単にできる体制の構築をされて来ました。そのお陰でKKSは、小さなNPOであるけれども、きちんとした社会的認知を獲得するに至っています。また、KKSに本学

の学生をインターンとして派遣し、PBL型の学びの機会を創出することにも力を注がれて来ました。今や学外の組織と連携して学生の学びを充実させることは当たり前となっていますが、仁志先生が始めた取り組みは正に先駆的であり、その機会を得た本学の学生は幸運であったと思います。

また、仁志先生は行政にも多くの貢献をされました。柏市では開発審査会の会長や環境審議会、建築審査会などの委員を歴任され、ご専門の都市経済学における知見を活かした助言をされて来ました。その功績が讃えられ、2019年には柏市制65周年記念市政功労者として表彰されています。行政の審議会などへの参加が求められる大学教員は少なくありませんが、1つの市でこれだけ多くの委員を同時に務めるケースは稀です。専門知識だけでなく、多忙な中でも会議に時間が割かれることを厭わず、穏やかなお人柄で丁寧に会議をまとめられることを頼りにされていたのだと思います。2月2日のお通夜に柏市長が参列されていたことから分かるように、仁志先生の柏市行政への功績は高く評価されています。

学術面でも仁志先生は多くの有為な業績を残されました。仁志先生は都市の成り立ちや変容を、膨大な客観データを用いて解析することを得意とされていました。特に2013年に応用地域学会で発表された論文「通勤率を用いた東京大都市圏の変容過程について」は注目を集め、後の関係する研究に大きな影響を与えました。また、私とはりメディア教育の成果の定量的分析について共同研究をさせていただき、その成果報告のために幾つかの学会発表をご一緒させていただいたことは楽しい思い出ではありますが、今後はそうした共同研究が叶わないことが残念でなりません。

最後に、私の家族も仁志先生のご逝去を悼んでいます。私の妻の実家には栗畑があって、毎年秋には収穫した栗を仁志先生に差し上げていました。仁志先生は、旅行された先の名産品など、栗の何倍ものお返しをしてくださっていました。私の家族は毎年それを楽しみにして、「今年の栗は何に化けるかな？」などと不謹慎な期待をしていたものでした。これからも栗の季節になると、私の家族も仁志先生のことを思い出して寂しい思いをすることでしょう。正に家族ぐるみのお付き合いをさせていただいた得難い友人を失った悲しみは深まるばかりですが、これまで仁志先生がしてくださった沢山のことに感謝するとともに、仁志先生のご冥福とご家族の悲しみが癒えることを切に願います。仁志先生、ありがとうございました。



佐藤 仁志 教授 略歴

学歴

- 1995年3月 筑波大学第三学群社会学類 卒業
 1997年3月 筑波大学大学院修士課程環境科学研究科 修了
 2003年3月 筑波大学大学院博士課程社会学研究科 修了 博士（社会学）

職歴

- 2000年4月～2003年3月 麗澤大学国際経済学部 非常勤講師
 2003年4月～2007年3月 麗澤大学国際経済学部 講師
 2007年4月～2014年3月 麗澤大学経済学部 准教授
 2008年4月～2014年3月 麗澤大学大学院経済研究科 准教授
 2014年4月～ 麗澤大学経済学部 教授
 2014年4月～ 麗澤大学大学院経済研究科 教授
 2015年4月～ 麗澤大学学長補佐
- 2006年4月～2011年3月 柏市建築審査会 委員
 2007年8月～ 柏市環境審議会 委員
 2013年10月～2015年10月 柏市公設総合地方卸売市場運営審議会 委員
 2014年4月～ 柏市開発審査会 会長
 2016年8月～ 柏市自転車等駐車対策協議会 会長

研究業績

- 「テレコミュニケーションの普及と都市構造に関する研究」日本都市計画学会学術論文集 第35巻 2000年10月
- 「テレコミュニケーションが都市構造に与える影響に関するシミュレーション分析」地域学研究 第30巻第1号 2000年10月
- 「複数都心を持つ都市構造の動的安定性に関する研究」日本都市計画学会学術論文集 第36巻 2001年10月
- 「テレコミュニケーションが都市構造へ与える影響」筑波大学大学院提出博士論文 2003年3月
- 「東京大都市圏における通勤家計の効用推計」麗澤経済研究 第13巻第1号 2005年3月
- 「首都圏における通勤家計の効用推計」日本地域学会第42回（2005年）年次大会学術論文集 2005年10月
- 「通勤家計の居住地選択時における評価要因」麗澤経済研究 第14巻第1号 2006年3月
- 「首都圏における通勤家計の居住地選択モデル」地域学研究 第36巻第4号 2007年3月
- 「中心市街地の訪問場所の選択構造に関する研究—千葉県柏駅周辺を事例として—」麗澤経済研究 第15巻第1号 2007年3月
- 「柏市における土地利用の変容について」麗澤経済研究 第16巻第1号 2008年3月
- 「小地域統計を用いた都市雇用圏の設定基準の拡張」麗澤経済研究 第17巻第1号 2009年3月
- 「非階層的クラスタリングによる東京大都市圏の考察」麗澤経済研究 第19巻第1号 2011年3月
- 「職業間ミスマッチの地域間格差に関する分析（特集 雇用ミスマッチ：概念の整理から）」日本労働研究雑誌 第54巻第9号 2012年9月
- 「通勤率からみた東京大都市圏の変化」日本地域学会第51回（2014年）年次大会 2014年10月
- 「大学入学前に形成された学習習慣が高大接続教育に与える影響」日本キャリア教育学会第36回研究大会 2014年11月
- 「基礎的計算についての学び直しの取組みと今後の課題」日本キャリア教育学会第36回研究大会 2014年11月
- 「大学初年次の講義外学習時間に関する基礎的分析」日本キャリア教育学会第38回研究大会 2016年10月
- 「基礎的数学力向上講座の大学教育における効果」日本キャリア教育学会第38回研究大会 2016年10月
- 「千葉県における少子高齢化の地域経済への影響と産業空洞化・地域間財政移転問題に対する経済政策分析」麗澤大学経済社会総合研究センター Working Paper・79巻 2017年3月
- 「首都圏における少子高齢化の地域経済への影響と産業空洞化・地域間財政移転問題に対する経済政策分析」麗澤大学経済社会総合研究センター Working Paper・86巻 2018年3月
- 「汎用的能力調査からみた学生のコンピテンシー形成について」麗澤大学紀要 第102巻 2019年3月